

志木二中だより

平成30年度 2月号
志木市立志木第二中学校

平成31年2月1日(金)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379



相手を敬う心

校長 本 莊 真

お正月からこの1か月間、多くのスポーツの大会が行われておりました。スポーツ観戦は好きで家にいることが多かったこともあり、数多くの競技をテレビで観戦しました。駅伝、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、テニスなど、年代は社会人、大学生、高校生、そしてプロ、アマ問わず様々ですが、熱く面白い試合を見ることができました。その中で私が一番印象に残っているのが、1月12日(土)に行われたラグビー大学日本一を決める試合でした。明治大学対天理大学で、序盤明大がリードし後半天理大が猛追し1トライ差まで詰め寄りましたがそこで試合終了、両校の力強いタックルの攻防は見応えがありました。試合自体も面白かったのですが、目を奪われたのはそのあとです。閉会式となり両校選手がグラウンドに一列に整列しました。優勝した明大の選手達がたくさんの賞状やトロフィー、盾などを次々に受け取るのですが、その前後に必ず天理大の選手に向かって深々と一礼していたのです。とてもすがすがしく見え感動しました。私はラグビーについて詳しくありませんが、「ノーサイド」(試合が終われば敵味方なく相手を称える)の精神なのでしょうか。ラグビーの大会において、いつもこういう風になっているのか、明大がたまたまこの日そうしたのかは私にはわかりません。いずれにしても、今までガンガン激しく当たり戦っていた相手に対し、試合が終わって敬意を表していることが伝わってきました。

私が長くやっている剣道も、相手があってできる武道です。「礼に始まり 礼に終わる」有名な言葉ですが、ここでいう礼とはただ頭を下げればよいという形のことではなく、相手への感謝や敬意を含んだ心の在り様であることを意味しております。礼のない剣道はただの暴力になってしまうと言われます。「打って反省 打たれて感謝」という言葉もあります。相手を打って『ヤッター』打たれて『チクショー』では剣道ではありません。打たせてもらいどうして打たたのかを考える、打たれて自分の弱いところ、未熟さを教えてもらい感謝する、お相手がいてできるのが剣道ですよ、という教えです。

明大の選手たちの一礼には心が見えました。それで印象に残ったのだと思います。志木二中生にもスポーツに限らず、本や映画、絵、音楽、人との出会い、日々の生活の中から何かを「感じる心」「感じる力」をさらにつけていってほしいと、その時思ったのです。